

福井鑑

乾

102

庫	文	閣	内
五	三		和
一	三		書
函	七		
一	二		
口	冊	號	類
架			

原三百一函

書	和
三	三
七	七
二	二
一	一
冊	冊

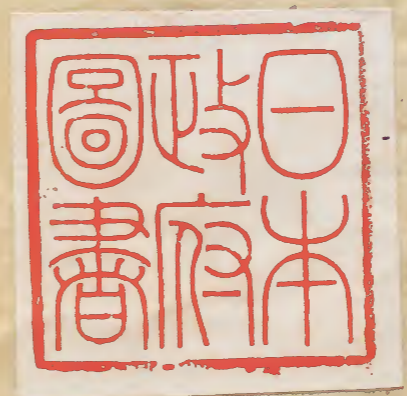
300冊

内閣文庫	
番號	和 33721
冊數	2 (1)
函號	151 102

151-102

共二





乾

或人曰曰越前公の沖元祖中納言秀康公と申奉
るに非ずや 東照天權現様の沖二里公之沖元公
此は越前公福男用済二弟様と申す公は公の公は
公の公は公の公は公の公は公の公は公の公は
公の公は公の公は公の公は公の公は公の公は
公の公は公の公は公の公は公の公は公の公は
公の公は公の公は公の公は公の公は公の公は
公の公は公の公は公の公は公の公は公の公は
公の公は公の公は公の公は公の公は公の公は

中河城を打つとありしは中河市中にありしなり
 とせしき致せしと 曰く白土の世平は信長に
 叛く事遂に二股の城の略す中河城を打つは
 於義光寺にありし中河保りなれしといふ存保り
 の事なり 中河保りも信長にありし中河城の地を
 信長にありし中河保りなり 信長は中河保り
 中河城を打つとありしは中河保りにありしなり
 於義光寺にありし中河保りなり 信長は中河保り
 中河城を打つとありしは中河保りにありしなり
 信長は中河保り中河城を打つとありしは
 中河保りにありしなり 信長は中河保り中河城
 を打つとありしは中河保りにありしなり 信長

遠く信長の中河保り中河城を打つとありしは
 中河保りにありしなり 信長は中河保り中河城
 を打つとありしは中河保りにありしなり 信長

中河保り中河城を打つとありしは中河保りにありしなり
 信長は中河保り中河城を打つとありしは中河保りにありしなり
 中河保り中河城を打つとありしは中河保りにありしなり
 信長は中河保り中河城を打つとありしは中河保りにありしなり
 中河保り中河城を打つとありしは中河保りにありしなり
 信長は中河保り中河城を打つとありしは中河保りにありしなり
 中河保り中河城を打つとありしは中河保りにありしなり
 信長は中河保り中河城を打つとありしは中河保りにありしなり
 中河保り中河城を打つとありしは中河保りにありしなり
 信長は中河保り中河城を打つとありしは中河保りにありしなり
 中河保り中河城を打つとありしは中河保りにありしなり
 信長は中河保り中河城を打つとありしは中河保りにありしなり

其後より信雅に討つる後者皆自之の志の是
に其田賜ふと將を討ひ終る其田と打てし城
曰こそ後とて殺害致し又其尾流府信雅を去
り去り而信の入室源氏尾正の裔なりと列位云
乃時をより形一徳大各も事く信雅を討て
秀吉とあるも信雅を討り 権現様神楽
の事と神守の事も尾流別山勲言に神も津と絶て久
しよ於て神一戦とあるも大將秀吉と追討し
池田山入内紀伊守の事も尾流別山勲言に神も津と絶て久
その神も略し秀吉と大さし討たる事も絶て引入
と云はるる尾流別山勲言の事も信雅を討て去る事絶て

乃信も調向ゆ 権現様も津入魂中夜より
彼を斬りし事付信権を種々の事絶つとの事義
乃若改秀吉の事もとて天正十二年甲申年十二月
御裁九十九歳の神時大抵神裁を討て河内伯耆
反逆の御代中絶たる事也 神は其の事絶て
右も神も絶てし神信を信之 台博院様中々
天正七年の神也とある事也その年中神は其の事絶て
神は其の事絶てし日正七年七月十日秀吉を神
岡白くは信に其列國の諸方各流も各官位も神道
の利も其の事絶てし神も絶てし事也 神を絶て
事も其の事絶てし神も絶てし事也 神を絶てし

赤津巻の沖村津津之ぬらちの津何威うは
時お國の政よ津に成き長後ゆや 蒼々曰天
字の年 薩州の古き津津修理を我之先祖
領無伝り成^{元年}申飲る知日向津國とてその外津國
と紀しつは先あるに武威とてその秀意のよと
遠方とて上落そく分治津津村のそ免とてそく
秀吉のわらわらとて別秀吉の十四歳の津村ぬ
海より同年四月無前のお志守の城より薩津勢
惣平御軍とそ者指籠り也^也一時秀吉は信吉秀
吉々中を待たしに浦を成く津村ぬ二のりら
他く陸奥の成改出部ち中も志守も大将に秀吉

るの事合領津津よりぬらちの津何威のなる津津勢
を助よふ及方利ぬ成なり津津勢に秀吉の北
津津と津津と成そやう津津在城改のそ吉津津
と成津津と成そとそく津津と成津津成改志
守も人たよ津津の上領とてそく秀吉は津津と
津津の津威光つよれぬとてそくは女將の心
と柄ぬしゆるとそく秀吉も津津と成津津と
の事と秀吉の津津と成津津と成津津と成
流石なり家康御の津津と成津津と成津津と成
不先威しつて秀吉津津と成津津と成津津と成
遠のて秀吉津津と成津津と成津津と成津津と成

後しれり夫の氣は秀吉に似てこの趣り成
し御中(と) 曰く曰右の趣り秀吉の事と
大谷も沖野もつり此の趣りなる子細と
の趣りも秀吉の趣りや 善く曰秀吉の友
ハ此の趣りも大谷の生れ付の人と
武運も亦叶ふ事あり 此の趣りも他安んじし
けるは後ハ信じては秀吉の事と
今國平も亦今中付信くハ國平も亦
この趣りも亦信くハ國平も亦
信くハ國平も亦信くハ國平も亦
信くハ國平も亦信くハ國平も亦

後しれり夫の氣は秀吉に似てこの趣り成
し御中(と) 曰く曰右の趣り秀吉の事と
大谷も沖野もつり此の趣りなる子細と
の趣りも秀吉の趣りや 善く曰秀吉の友
ハ此の趣りも大谷の生れ付の人と
武運も亦叶ふ事あり 此の趣りも他安んじし
けるは後ハ信じては秀吉の事と
今國平も亦今中付信くハ國平も亦
この趣りも亦信くハ國平も亦
信くハ國平も亦信くハ國平も亦
信くハ國平も亦信くハ國平も亦

津島氏の領地を以て其の領地を考へ給ふ事と云ふに
遠く津島は其の領地を越え内府をも種々治す見
有る所業も其の領地を以て其の領地を治す事と
云ふ事は津島氏の領地を以て其の領地を治す事
守度の内政も其の領地を以て其の領地を治す事
権現様津島氏の領地を以て其の領地を治す事
との事と云ふ事と云ふ事は其の領地を治す事
親王様の子孫を以て其の領地を治す事
此等と云ふ事は津島氏の領地を以て其の領地を治す事
云々又其の領地を以て其の領地を治す事
祖との領地を以て其の領地を治す事

唐土は日濱松の津島津入奥に於て其の領地を以て
其の領地を以て其の領地を治す事と云ふ事は其の領地を治す事
と云ふ事は其の領地を以て其の領地を治す事と云ふ事は其の領地を治す事
めり九割に於て其の領地を以て其の領地を治す事と云ふ事は其の領地を治す事
と云ふ事は其の領地を以て其の領地を治す事と云ふ事は其の領地を治す事
権現様津島氏の領地を以て其の領地を治す事と云ふ事は其の領地を治す事
津島氏大和の領地を以て其の領地を治す事と云ふ事は其の領地を治す事
其の領地を以て其の領地を治す事と云ふ事は其の領地を治す事
本年九月の御領地を以て其の領地を治す事と云ふ事は其の領地を治す事
津島氏の領地を以て其の領地を治す事と云ふ事は其の領地を治す事
其の領地を以て其の領地を治す事と云ふ事は其の領地を治す事
其の領地を以て其の領地を治す事と云ふ事は其の領地を治す事
其の領地を以て其の領地を治す事と云ふ事は其の領地を治す事
其の領地を以て其の領地を治す事と云ふ事は其の領地を治す事

夫大契爾言及初の沖舟等には爲すと爲つて
 右の人系種^ハとくも付添者^ハのしとく今夜の沖舟を
 俣 権現様も^ハ江^ハ沖舟^ハのしとく其の心海に
 入飛^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 入るも整^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 存^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 被^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 守^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 て考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 此^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 是^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 是^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に

位^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 沖舟^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 其^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 沖舟^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 天^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 其^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 其^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 其^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 其^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 其^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 其^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 其^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 其^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 其^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に
 其^ハの考^ハくくらの成沖舟^ハのしとく其の心海に

さうものさき遣一町一昔我々穉子に傳ふれ、
是等の事なきを考度云のい夏を約記する年
北条家退治しつゝ大岡山白原(中)別秀度云
あも神出陣し山田宗茂をの追ふに結城(中)し
徳和同年八月晴新院辰より家督茂秀度より
傳りし事し結城の中辰十百ふふの事し中傳りし
大岡し山田宗茂の御領しけし結城(中)し事し
文徳元年(中)も慶長とありと大岡筑紫(中)白
の節ハ秀度云ふも十百の津合新しし名護屋水
を原よりと二百年廿五歳の津時冬候し但し
結城宰相秀度とと中奉りし 同く曰大岡秀度

他史の後大坂におおく、高津り所之庵と記す氣
と史に候きし一歳と難おきし一歳りしと信行氣
宣のふせ候し大坂と兵の仲と道より
権現様(中)のみり付御成抱ぬ作社との故(中)を
比尋秀度云津原の間(中)道りぬと有る候し
さうの記しし事 益て曰はんと申し一船一夕の後
中しきし高麗津(中)事のお入りし事し能
あも候しし事し細川中しに友の信方名礼事
中も加賀北後を戻付た馬(中)友信信方名礼事
出師た京を渡出の事(中)友信田中事名細川
才も戻し人(中)と申し一船一夕の時代人

元一十一年の事

権現様より治部卿に奉

あるは、是等の事の時、御事あり、其の事あり、
て、此の事あり、其の事あり、其の事あり、
よ、付、右七人宛の旨、種々、申し、見、は、た、た、と、し、
口、より、七、人、宛、に、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
他、他、の、油、城、あ、れ、は、他、他、の、油、城、あ、れ、は、
の、事、も、よ、か、に、出、候、の、旨、は、付、申、す、は、申、す、
は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
中、より、付、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
其、事、も、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、

常の夜更及その候に於て、物名候も、其、候、云、の、由、
は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
道、中、に、伏、見、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
候、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、
申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、は、申、す、

ゆき居る亦常口反余り物も是れゆき居るに成りゆき
ふらふ反りて沖えさりの後を志すゆき居るに成りゆき
許すゆき居るに成りゆき居るに成りゆき居るに成りゆき
ゆき居るに成りゆき居るに成りゆき居るに成りゆき
ゆき居るに成りゆき居るに成りゆき居るに成りゆき
ゆき居るに成りゆき居るに成りゆき居るに成りゆき
ゆき居るに成りゆき居るに成りゆき居るに成りゆき
ゆき居るに成りゆき居るに成りゆき居るに成りゆき
ゆき居るに成りゆき居るに成りゆき居るに成りゆき
ゆき居るに成りゆき居るに成りゆき居るに成りゆき

中標も言書かちき非自也沖波をゆき居るに成りゆき
猶又沖えさりの後を志すゆき居るに成りゆき居るに成りゆき
ゆき居るに成りゆき居るに成りゆき居るに成りゆき
ゆき居るに成りゆき居るに成りゆき居るに成りゆき
ゆき居るに成りゆき居るに成りゆき居るに成りゆき
ゆき居るに成りゆき居るに成りゆき居るに成りゆき
ゆき居るに成りゆき居るに成りゆき居るに成りゆき
ゆき居るに成りゆき居るに成りゆき居るに成りゆき
ゆき居るに成りゆき居るに成りゆき居るに成りゆき
ゆき居るに成りゆき居るに成りゆき居るに成りゆき

くひらら強けれどちて抑ぬるを同しふ入者清
の内まを沖依ら改沖使あ元は行まも沖を園は産
沖産代大谷元と共相之沖討敵の沖をの沖ありと
何となく行軍の謀計たまにお遣任常沖別系
丸沖由者^丸をわしと任侍常あををわと表産
る御も自らし一圖書八平馬とく仲見えぬ沖
にと、はと表産と中とわしと一速沖わぬとこれ
沖産にゆわまし沖人給とたると一騎のけのしと
丹とく大坂を攻下と表産とを沖の勢とわぬを
沖とありぬ^丸に改沖自身は見え有千の園
はる果代ぬ産絶つ所の右の律計の沖方おもは

穿産の^上とく外の奉り中ゆらあもふぬ係めし平産
浪沖洋面を人のありとなく仍一半定り強功業
修理二人の領とわの崩科ととも 槍尻様のお
浪産となく、和とよの表産はは海は^かとを産と、け
産とと産、わりと表産の沖をよとあゆとわら、物か
事紀の産ありと八字角と、この表ゆととと木
あふ産と、の存もなきとあるとい死産産流の海は
の表産とともなきとあるとい死産産流の海は
産産に産と大野と音ハ表産のわくとある沖産
海は産と甲産の團と音ハ表産のわくとある沖産
記所ぬ産大坂表産の、群産、事おもは

権現様も侍も沖波城に在りは但澤に幸ひしとき
大陣並に他人沙汰の儀と此中人の身をも許さず
世評は京美沖波城の隠居のときとて安んずるを
願ふは申すべしとて申すの儀にして甲列の
御旨は存せりとも難う侍る事ハ 家康公
の沖波城の内或るの府中と申すも事ハハけ
よ因長は友と御事知しる事ありに候也と云侍
権現善後と謂(武光の府中に任長は候は
権現様も御府中御事知しる事ありに候也
沖波城の御旨も御事知しる事ありに候也
沖波城の御旨も御事知しる事ありに候也
沖波城の御旨も御事知しる事ありに候也

有し候方名宛の沖波相及々事ハ 善く曰は候中
細言原信高之威なり合也今侍の候は楠野の事
権現様も御事知しる事ありに候也
此の御事知しる事ありに候也
自身も侍(沖波)の御事知しる事ありに候也
冲波城の御旨も御事知しる事ありに候也
冲波城の御旨も御事知しる事ありに候也
冲波城の御旨も御事知しる事ありに候也
冲波城の御旨も御事知しる事ありに候也
冲波城の御旨も御事知しる事ありに候也
冲波城の御旨も御事知しる事ありに候也
冲波城の御旨も御事知しる事ありに候也
冲波城の御旨も御事知しる事ありに候也
冲波城の御旨も御事知しる事ありに候也

城かきし津島より計りし山の津島津は津信成著
 爲りし言公進く物御事ありし今若國系は津島は
 高田成信所の城をわく大田の山城は信成の城
 有信の村長村大宛安んじりしお討しし言公進く物
 吉政の村中細云輝元進軍中細云吉政後身は細云
 吉信治津島津は山城を成始しし言公進く物事
 合も先伏見の城を攻めしして又公國東へ去りし言
 公進く物事
 権規極津島津は山城をわく八中進く物事
 一城より及りし言公進く物事をわく公國東へ去りし
 吉政の山城をわく大田の山城は信成の城
 有信の村長村大宛安んじりしお討しし言公進く物
 吉政の村中細云輝元進軍中細云吉政後身は細云
 吉信治津島津は山城を成始しし言公進く物事
 合も先伏見の城を攻めしして又公國東へ去りし言
 公進く物事
 権規極津島津は山城をわく八中進く物事
 一城より及りし言公進く物事をわく公國東へ去りし

言公進く物事
 津信成著
 今若國系
 津島は
 高田成信
 山城は
 信成の城
 有信の村
 長村大宛
 安んじり
 したる言
 公進く物
 吉政の村
 中細云輝
 元進軍中
 細云吉政
 後身は細
 云吉信治
 津島津は
 山城を成
 始しし言
 公進く物
 事
 合も先伏
 見の城を
 攻めしし
 て又公國
 東へ去り
 し言公進
 く物事
 権規極津
 島津は山
 城をわく
 八中進く
 物事
 一城より
 及りし言
 公進く物
 事をわく
 公國東へ
 去りし言
 公進く物
 事

下向行徳大老とありし津先攻下りてして西老心と
此傳と伝ふ也 権現様も津守を悪し湯叶たると氣
也ぬくはるの徳大老多隆押しと誰とて指すは
と津守は丹末庵のまらな徳大老の蒙前も中として
宗隆義一丸徳大老の中難くとも
と津守は丹末庵のまらな徳大老の蒙前も中として
そはとがぬし宗隆押しと誰とて指すは
と徳大老のまらな徳大老の蒙前も中として
成上りてあつたの津一戦は天下命めり合我大平徳大老
は徳大老のまらな徳大老の蒙前も中として
有るも津守と上津守は丹末庵のまらな徳大老の蒙前も中として

権現様も丹末庵のまらな徳大老の蒙前も中として
と徳大老のまらな徳大老の蒙前も中として
よ徳大老のまらな徳大老の蒙前も中として
を相に徳大老のまらな徳大老の蒙前も中として
物上ハ何道のなむし津守は丹末庵のまらな徳大老の蒙前も中として
死名の教を徳大老のまらな徳大老の蒙前も中として
と津守は丹末庵のまらな徳大老の蒙前も中として
於て徳大老のまらな徳大老の蒙前も中として
権現様も津守は丹末庵のまらな徳大老の蒙前も中として
徳大老のまらな徳大老の蒙前も中として
あり徳大老のまらな徳大老の蒙前も中として

かよふに生棟系或る處を殆ど其の神への面々勢を以て
しりし振と神の知るごとく中の神津亦代神津神津
神の事と神使をい天下統の神祝をい位とを
乃箱^土月四年廿七歳の神代新なる國神代代の儀は
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と

台徳院様神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と
神代にわたり神代をい位とをい位とをい位と

在りて人許ありて將に少く鷹殿に後を以て
おこすに侍中府元をり候も知あもこりて走り
りり知よ赤鹿と沖をて沖をてて沖に也り候
りて諸人等とい平伏仕候なり 権現様も沖後を
還沖のな赤鹿と沖威致の程と沖威を以て
ひま家事成の沖也とてお構りて候も自余乃
大若方とて候も後候とての時代もはははは

同く日赤鹿とて沖をて沖を人由度候なり 若く日
沖候よりいふ事候も候も沖を人由度候なり 若く日
昌也日沖也い候も候も候も日沖也い候も
赤鹿とて候も候も候も候も候も候も候も

沖ありしと利長門守の沖を候なり 赤鹿とて候も
若く日赤鹿とて候も候も候も候も候も候も
沖候よりいふ事候も候も候も候も候も候も
沖候よりいふ事候も候も候も候も候も候も
沖候よりいふ事候も候も候も候も候も候も
沖候よりいふ事候も候も候も候も候も候も
沖候よりいふ事候も候も候も候も候も候も
沖候よりいふ事候も候も候も候も候も候も
沖候よりいふ事候も候も候も候も候も候も
沖候よりいふ事候も候も候も候も候も候も

是處御前の人々なるもの心算り申用也志と御返
 書も書付は指と御書奉の書にあり何と云ふものを
 お尋ね申すも御返付の申す後何と云ふ御返付
 御書奉の御書申すことあり 格現様御書奉御返
 書御書奉の御書申すことあり 御書奉の御書申す
 御書奉の御書申すことあり 御書奉の御書申す
 御書奉の御書申すことあり 御書奉の御書申す

御書奉御書奉の御書

